



# 栄中だより

栄中開校57年「いいとこ探しの学校」自主・自律・親和・協力 笑顔あふれる栄中学校

草加市立栄中学校

令和2年度11月号

令和2年11月2日

## 開校記念日

～この地に57年、開校当時の想いに学ぶ～

校長 今泉 正之

早いもので今年もあと2か月。新型コロナウイルス感染防止のため、例年とは大きく異なった学校生活が続いています。それでも少しずつ、日常の学校が戻りつつあります。9月末から10月初めに実施された新人体育大会市内・県南予選、2名の生徒が参加した全国中学生陸上競技大会（ジュニアオリンピックカップ）、草加市文化会館大ホールでの赤とんぼ祭、どれも練習が制限される中、できる方法を探し、保護者の方の来場等はお断りすることとなりましたが、生徒は練習そして本番に全力で取り組んでいました。日常が戻ってくるまでには、今しばらく時間がかかるとは思われますが、感染防止と教育的価値のバランスを考えながら学校を前に進めて行きたいと考えています。御協力をよろしくお願いいたします。

さて、11月2日は開校記念日です。本校は1947年（昭22）4月に新制中学として現在の新田小学校の校舎において、新田村立新田中学校として設置されました。第一回卒業式は1949年（昭24）3月に行われ12名が卒業しています（開校した年度の中学3年生はいなかったと思われます）。第二回卒業生は45名、第三回卒業生は47名と少しずつ生徒数が増えました。1951年（昭26）11月2日に新校舎の地鎮祭を実施し、この日を開校記念日と制定しました。校舎は現在の新田小学校の西側に約1年後に完成、1955年（昭30）に町村合併により草加町立新田中学校となりました。その後、近隣に松原団地が建設され学区の変更が必要となり、1962年（昭37）より入居者の募集が開始、団地内の現在地に位置変更が決定し、翌1963年（昭38）11月1日に現在地に校舎移転となりました。そして1964年（昭39）東京オリンピックの行われた年の4月1日に校名が草加市立栄中学校となり、この年のうちに校章（当時の福田兼松先生が制作）、校旗が制定されました。第一回卒業生は115名、翌年の5月1日の3年生は152名ですが、卒業生は217名が卒業していますから、5月から3月の卒業までに65名の中学校3年生が転入、団地の人口が急増していたことがわかります。その後年々生徒数は増加し、卒業生が500名を超える年もありました。

開校当時の資料を見てみると、当時は校訓（当時は親和・勤勉・教養の3つ）の他に生徒訓があったようです。内容は清潔・勤勉・従順・規律・尊敬と友情・校舎と校庭・グラウンド・家庭の項目があり、合計26の生徒訓が述べられています。その中からいくつか紹介します。

### ○勤勉

- 一、勤勉は斧である。文化や科学を開く斧である。
- 一、学力の向上も、スポーツの上達も、困難な問題の解決も勤勉だけが可能にする。
- 一、勤勉はまた人格の中心である。

### ○従順

- 一、すなおな心を失った時、君のその心の成長も止まってしまうだろう。

### ○尊敬と友情

- 一、すべての友を尊敬しなさい。それはまた君が尊敬される民主主義の唯一の方法である。
- 一、友情と正しい競争は君を人生の花道に導くだろう。

### ○家庭

- 一、家庭は君の一切のことの源である。  
以上常に正しい中学校生徒の姿を整え、ゆったりと、胸をはって歩きなさい。  
生徒は、朗らかであれ  
教師も亦、朗らかであれ  
とりわけて、校長は朗らかであれ

現在も学びたい内容のある生徒訓ですが、中学生だけでなく社会に出てからの生き方の指針でもあるように思います。ちなみに、校名が栄中となる前年度の卒業生99名のうち、進学者54名、就職者45名。中学校を卒業すると、大人として社会で働くことは普通。そんな時代だったことがわかります。